

公益社団法人 全日本鍼灸学会 東北支部通信 No. 7

平成 30 年 7 月 1 日（日）宮城県仙台市の東北大学大学院医学系研究科・医学部星陵キャンパス 臨床講義棟にて、東北支部学術集会在開催されました。真夏日の中 66 名の方が参加されました。今回は日本東洋医学会宮城県部会との同時開催ということもあり、とても賑々しい会となりました。



シンポジウム「相互理解のための漢方と鍼灸それぞれの視点—冷え性—」では、東北大学病院 漢方内科 准教授 高山真先生（左）、若宮重陽院 院長 渡部正司先生（中央）、一寸法師ハリ治療院 院長 中沢良平先生（右）の 3 名の先生から、行っている治療が何を狙いどのように介入するのかそれぞれの立場からお話いただき、それに対してご参加の方からご質問いただき、認識を深め合いました。絶妙に共鳴しあう鍼灸・漢方のこれからの展開に鼓動が高鳴りました。



本支部は今年で結成から 35 年を迎えました。その記念としてパネルディスカッションでは、福島県立医科大学 会津医療センター 漢方医学講座 教授 三瀧忠道先生（右）、医療法人ときわ会 創設者 永山隆造先生（左）より、「東北の未来の鍼灸師に期待すること」の演題でお話をいただきました。鍼灸の広がる可能性について説いていただき、医療の主体者として自信をもって臨むよう、これからの鍼灸師として奮起するべく心構えを熱弁していただきました。



学生発表として、赤門鍼灸柔整専門学校より、「10 日間の下肢カップングにより身体的変化はみられるか」生野隆二さん、「前脛骨筋 筋膜リリースによる身体状況の変化—東洋医学と西洋医学、両面からの考察—」相澤啓介さん。福島県立視覚支援学校より、「母指での触察に関する研究～熱可塑性エラストマーを用いて～」佐藤秀州さん 箱崎敬洋さん。一般口演として、「四部脈診」のすすめ—経絡治療の新方式—赤門鍼灸柔整専門学校 臨床教育専攻科 専任教員 浦山久嗣先生。福島県立医科大学 会津医療センター 松浦知史先生、村橋昌樹先生より、それぞれ症例報告を発表していただきました。

次回は 9 月 30 日（日）岩手県盛岡市 アイーナいわて県民情報交流センターを会場として A/B 講座を開催します。詳細はホームページにてご確認ください。